

# 近森病院附属看護学校 自己評価・学校関係者評価表

(評価期間:2021年4月1日～2022年3月31日、公開年度:2022年度)

大項目	中項目	コメント
1.教育目的		教育理念・教育目的は学校指定規則に沿った内容であり整合性がある。教育理念・教育目的は、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーと連動し、看護・看護教育・学生観を教育内容に反映できている。新カリキュラム編成に伴い、基盤となる考え方を教員間での周知を図る機会とし、アセスメントポリシー(検証方法)を明示したことで教育の質保証に対して客観的な評価が可能となった。
2.教育目標		教育理念、教育目的・目標は、ディプロマポリシーに明示している人物像と具体的なカリキュラムには一貫性がある。ディプロマポリシーは、新カリキュラム構築にあたり教育目標を具現化し文言を修正した。それにより、卒業後に貢献できる看護師像が明確になった。
3.教育課程経営	教育課程管理者の活動	2022年度より開始となる新カリキュラムよりアセスメントポリシー(教育検証方法)を取り入れている。2021年度はその準備期間となった。また、新カリキュラム作成のため、教務会議で教育理念など何度も振り返り科目の設定を行った。
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	厚生労働省より提示された看護師養成所3年課程の考え方を基盤とし、1年生から3年生までの成長に応じた科目配置を行っている。
	科目、単元構成	科目設定は教育理念、および、厚生労働省より提示された看護師養成所の3年課程の考え方を基盤とし、本校の特徴を活かした内容となっている。また、本校の特徴である急性期医療から在宅までの看護、および、チーム医療、リハビリテーション看護などの科目がある。
	教育計画	学習の手引きに学則・細則・履修規定を明示している。
	教育課程評価の体系	評価の観点については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に沿った整理を検討。
	教員の教育・研究活動の充実	非常勤講師が多く、専任教員の時間数は少なく抑えることができている。また、近森会グループでの実習の協力もあり、比較的授業準備を行う時間の確保ができている予定であるが、コロナの影響でここ2～3年は厳しい現状もある。また、新カリキュラム構築に向けて教員間でディスカッションを行った影響もあり、教員の自己学習の必要性の意識が高まったのではないかと考える。
	学生の看護実践体験の保障	実習施設との関係性は非常に良く、実習施設は学生の学びの支援を行っている。また、実習指導者会議や実習前の打ち合わせ、実習終了時の振り返りなどを行い学生の教育体制を整えている。
4. 教授学習評価過程	授業内容と教育過程との一貫性・看護学としての妥当性・授業内容間の関連と発展	「学習の手引き」のシラバス欄に授業内容などを明示し、教育内容との一貫性を確保している。昨年度の評価で検討課題となった授業間で重複する内容につき、2022年度カリキュラム改訂に合わせて見直しを行った。全体のつながり、科目間、各授業内容の見直し、整合性の調整を行った。
	授業の展開過程	今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染により、オンライン授業への切り替え、授業方法の変更を余儀なくされた。その中で、授業内容に応じて、授業形態を選択・工夫し、教育効果が上がるよう努力している。必要に応じてアクティブラーニングも引き続き取り入れており、主体的な学習ができるようにしている。また、自ら考え、グループで意見を出し合い、発表を行い、学びをアウトプットできるようにしている。実習では臨地の場を想定し、教員による看護師、模擬患者の実施、情報機器を駆使した模擬電子カルテによる情報収集を行い、臨地の場に行けなくても実習での臨場感が得られ、実習での学びができるよう教員総動員で関わった。しかし、タイムリーに記録の進捗状況が確認できないなど、オンライン実習による限界もあり、今後の課題である。各科目の目的および目標達成するための授業計画については、授業案の作成により、整理しつつ、意図的に授業を展開していく必要があり、今後の課題としたい。
	目標達成の評価とフィードバック	授業評価結果は、教員個々の授業改善のための資料として役立てるために実施しているが、評価の回収方法や各教員へのフィードバックの方法については検討中である。今後は授業評価結果を各教員あるいは学校全体としてどう活かしていくかが課題となる。また、学習の手引きには科目毎の達成目標やアセスメントポリシーを明示しており、学生が科目の授業や実習、学校行事などあらゆる場面で目標・ゴールを意識し、授業や実習、学校行事に取り組めるよう体制を整えている。成績評価に関しては、評価内容を学生に提示し、状況に応じて個別面談の機会を設けフィードバックするなど、公平かつ明瞭な評価を行っている。評価基準については、科目により違っている現状があるため、改善途中である。
	学習への動機づけと支援	シラバスへ提示し、活用することで、学生の学習への動機づけとなるよう意識して支援を行っている。また、アドバイザーによる定期的および必要性に応じて個別面談を実施することで学生の状況把握に努め、関係性を築き、学習への動機づけと支援が図れるように対応している。
5.経営、管理過程	設置者の意思・指針	管理者は、教育理念・教育目的、教育課程経営についての考え方をパンフレットや学習の手引きに明示している。本校は管理者の考えに基づいて学校運営を行っており、開設者は学校運営会議に委員として出席しており、その会議で学校側の活動について確認をして頂いている。教職員は毎週発行される学校長便りや学校運営会議、教務会議での発言をもとに設置者や管理者の考えを理解している。
	組織体制	組織体制での権限や役割分担は、職務分掌規程に明記している。教職員は役割分担に関わる各種委員会に参加して発言できる体制を整えている。委員会での決定事項は各委員会の議事録に残して委員に周知している。教員の任用は教員任用の考え方をもち、教員の研修は研修計画にもとめて行われている。学校は指定規則で定められている人員配置や設備、図書、規程等の基準に準じて学校運営を行っている。
	財務基盤	本校の財務情報はホームページに公開している。予算計画時に教職員の要望を確認した上で教育の質向上に必要な図書や備品教材は、予算を確保して購入をしている。本年度収支実績や次年度収支予算は、毎年2月の学校運営会議に報告しており、予算審議を経た上で予算執行をしている。
	施設整備	パンフレットなどに明示している管理者の考えをもとに施設、学習・教育環境の整備を心がけている。2021年度は、新カリキュラム改定に伴い、学内Wifiネットワークを構築し、2022年度からの電子書籍稼働に備えた。新型コロナウイルスの感染対策で登校が出来ない場合には、オンライン授業へ切り替えて、教育が途切れない体制を構築している。学生が円滑な学生生活を過ごせる様に、定期的に専門業者さんに依頼して学内設備の点検、補修して設備を保守維持をしている。社会人のニーズを踏まえ、授業料負担軽減の為に、専門実践教育訓練給付制度の指定を受け、社会人学生が利用できる体制を整備している。
	学生生活の支援	入学後に学修が継続できる様、教員によるアドバイザー制度を導入して学生の学習面や生活面の相談・支援を行っている。また、臨床心理士が月2回カウンセリングを行っている。それらの支援が利用しやすい様に学習の手引きに掲載して周知している。実際の奨学金や支援制度の利用状況は全学生の3/4以上になる。学生の安全確保としては、新型コロナウイルスで検査が必要な場合には、法人負担で抗原検査を行っている。また、不審者対策として出入口に監視カメラを設置している。防災対策として、教員、学生に防災ヘルメットの常備、学内には備蓄食・水を3日分を備えている。消防訓練も定期的に実施をしている。学生の個人情報管理として、学籍システムへ外部からアクセス出来ない様にセキュリティ対策を行っている。学生の健康管理として毎年春に全学生の健康診断を実施、学内には保健室を整備している。
	情報提供	保護者への情報提供は、ひろっば(法人の広報月間誌)に学校通信のコーナーを設けて、毎月、学校の活動状況を報告している。保護者からは後援会を通じて実習バッグや防災ヘルメット寄贈などの学生支援をして頂いている。広報活動として、毎年春に高校訪問をして学校のPRをしている。また、遠方の高校へは資料郵送をして広報活動をしている。本校の入学希望者向けには、オープンキャンパスで学校紹介をしている。社会的説明責任としてホームページに、3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)を掲載している。
	将来構想	将来構想をもとに長期計画、短期計画、年間計画を立案している。自己点検・自己評価委員会にて自己評価を行い、学校関係者評価委員会では本校の自己評価の再評価をして頂いている。
	自己評価	自己評価の意味と目的は規約に記載し、その規約に基づいて自己点検・自己評価を実施している。自己点検・自己評価後は評価内容を学校運営会議に報告、頂いた意見を学校運営にフィードバックするようにしている。自己評価結果は、ホームページに公開している。
	6.入学・広報活動	入学
広報活動		毎年、広報計画をたてて、受験生確保の活動を行っている。パンフレットは毎年見直しを行い、更新したパンフレットを使って広報活動を行っている。パンフレットには、卒業生の就職先や進学情報も掲載している。オープンキャンパスでは、担当教員による入試説明、教員による看護技術体験、奨学金の説明には事務局が対応できる体制をとっている。また、オープンキャンパスに参加できない受験希望者には、個別相談会やオンラインでの説明会を行って情報提供を行っている。

## 近森病院附属看護学校 自己評価・学校関係者評価表

(評価期間:2021年4月1日～2022年3月31日、公開年度:2022年度)

大項目	中項目	コメント
7. 卒業・就業・進学		卒業時の到達状況調査は卒業学年を対象に実施しており、今年度も5期生の集計は終了した。しかし、卒業時アンケートの作成には至っておらず、ディプロマポリシーとの整合性の評価ができていない。今後は卒業時アンケートを作成し、分析を行うことで、課題を明確にしていく。今年度もコロナ禍の影響で同窓会の開催や就職先の全訪問ができなかった。その中でも、同窓会役員とは連絡を取り合い、同窓会として式典に参加してもらうことで継続した関わりを行った。コロナ禍の影響が続き、一昨年からの課題である卒業生の活動状況や就職先との連携は進んでいない。直接訪問が難しい状況が続いているためオンライン等を活用した訪問等を検討し、就職先との連携を推し進めていく。
8. 地域社会活動	地域社会	地域社会のニーズの把握は、学校連絡会を通じた県内の教員間の連携、職業実践課程における外部委員との交流、近森会グループとの交流・連携を通じ行っている。地域への学校の情報発信は、学校ホームページやパンフレット、インスタグラムなど複数の手段を使い状況に応じ見直すことができている。地域社会との交流や貢献については、新カリキュラム構築を機会に、生活の場の視点を持ち教育内容に取り入れることができた。今後は、地域貢献という視点での学校づくりを行ってきたい。
9. 研究		研究に関する教員の意識は高く、取り組むテーマの抽出が行えた。経験豊かな教員の配置や文献検索等の環境は整っているが、時間の保障等には課題がある。研究発表や雑誌等への投稿はできており、今後も継続して実施したい。